

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時 平成25年 5 月 24 日（金） 第 1 校 時

対 象 2 年 4 組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教 諭 濱 田 和 美

1 内容及び題材名 C 衣生活・住生活と自立「住居の機能と住まい方」

2 題材設定の理由

近年、わたしたちを取り巻く生活環境は、科学技術の進歩によって目まぐるしく変化している。また、少子高齢化等によって家族形態も変化しており、単身世帯、共働き世帯の増加に伴い、生徒を取り巻く環境も変化している。

学習内容「C 衣生活・住生活と自立」は、小学校家庭科での学習内容「C 快適な衣服と住まい」との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図ることをねらいとしている。衣生活と住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、衣服の洗濯、着用、手入れと住居の安全で快適な住まい方についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服と住居の機能について関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって衣生活と住生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

生徒は、日々、時間に追われた生活をしていることや生活経験の不足から、主体的に自分の生活をよりよいものにしていこうという意識が低い傾向がある。住生活に関しては、思春期である中学生にとって、個人の部屋をもちたいという願いや、住宅リフォームの番組によりインテリアに関する興味は見られるものの、生徒の住宅事情は多様であり、個人差が大きい。中学生段階における住生活の学習では、①住まいが衣食住と同じように、人間が人間らしく生きる不可欠なものであることを理解し、②住まいは簡単に変えられないが、住まい方は今日からでも変えることができることに気づき、③よりよい空間で暮らすことの心地よさを理解させることが大切である。

指導にあたっては、住生活の内容は、取り扱う対象が大きいため、教材として教室に取り入れるのが難しい。そのため、本時では、生徒が見通しを持ち、意欲的に取り組めるように「模型教材の導入」並びに「ICTの活用」を行った。模型教材を使用し実際の場면을想定させることで災害が発生した際にどうすれば安全が確保できるか、自分の住まいに関して考える機会へとつなげていけるような場面を設定した。また、ICTを活用することで、自分の考えにとどまらず、グループや全体で意見を共有することにより、より考えを深めさせる場面を設定した。

3 題材の指導目標

- (1) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について関心をもたせ、住生活をよりよくしていこうとする態度を育てる。
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫させる。

- (3) 住居の機能について理解させ、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的な・基本的な知識を身に付けさせる。

4 指導計画 (20時間)

C衣生活・住生活と自立

学 習 内 容	時数	主 な 指 導 内 容
1 自分らしく着る・快適に着る 1 日常着の活用 ①衣服のはたらき ②自分らしく目的に合わせた着方 ③衣服の活用と選び方	3 ① ① ①	○ 衣服の社会生活上のはたらきについて知らせる。 ○ TPOに応じて自分らしさを表現する着方を考えさせる。 ○ 既製服を選ぶポイントなど、表示などの効果的な活用の方法を知らせる。
2 日常着の手入れ ①汚れと手入れ ②手入れと表示 ③衣服の洗濯 ④衣服の補修とアイロンかけ	4 ① ① ① ①	○ 衣服につく汚れやしみの種類と性質に応じた、手入れの方法や保管のしかたを知らせる。 ○ 衣服に応じた手入れを行うために表示を活用するとよいことに気付かせる。 ○ 衣服の洗濯やアイロンかけなど、日常の手入れの方法などを知らせる。
3 環境に配慮した衣生活	1	○ 家で工夫している洗濯や手入れなどについて考えさせる。
2 快適に住まう 1 住まいのはたらき ①住まいのさまざまな役割 ②共に住まう	2 ① ①	○ 住まいの基本的なはたらきを理解させ、住まいに必要な空間と役割を知らせる。 ○ 住まいの空間と家族の生活行為とのかかわりについて考えさせる。
2 安全な住まい ①住まいの安全対策 ②災害への備え	2 ① ① 本時	○ 家庭内の事故の種類とその原因を理解させる。 ○ 安全な住まい方を考えさせたり、非常時の備えとして必要なものを考えたりさせる。
3 快適な住まい ①室内の空気調節 ②住まいと音	2 ① ①	○ 室内の空気が汚れる原因を知らせ、健康に配慮した住まい方を考えさせる。 ○ 生活騒音の種類と問題点を理解し、適切な防音対策を工夫させる。
3 生活を豊かにするものをつくる ①しるしつけとしつけ ②ミシンで縫おう ③押さえ縫いをしよう ④仕上げをしよう	6 ① ② ② ①	○ 住まいを美しくするための工夫を考え、ボックスティッシュケースの製作をさせる。

5 生徒の実態 (平成25年4月19日実施 対象：2年4組40名)

(1) 住まいに関する学習に関心がありますか。

とてもある3名	ある 24名	あまりない10名	ない3名
---------	--------	----------	------

(2) 住まいの学習で関心がある項目は何ですか。(複数回答)

- ・快適に住まう工夫・・・・・・・・・・14名
- ・住まいの安全対策・・・・・・・・・・11名
- ・住まいの空間の役割・・・・・・・・・・10名

- ・室内インテリアの工夫・・・・・・・・6名
- ・住まいの役割・・・・・・・・4名
- ・室内の掃除の方法・・・・・・・・2名

(3) 室内を快適に保つために、掃除をしたり片付けをしたりしますか。

ときどきある 16名	あまりない 20名	ない 4名
------------	-----------	-------

↑よくある 0名

(4) 自分の部屋やよく使う空間の家具の配置がえをしますか。

ときどきある 6名	あまりない 15名	ない 19名
-----------	-----------	--------

↑よくある 0名

(5) 安全に住まうための工夫を行っていますか。

行っている10名	行っていない 14名	わからない 16名
----------	------------	-----------

〈考察〉

アンケートの結果から、住まいに関する学習に関心が「とてもある」「ある」と答えた生徒は27名で全体の67.5%である。住まいに関する学習で関心がある内容として「快適に住まう工夫」や「安全対策」などと答えた生徒が多い。これから季節が夏に変わるため「涼しい住まい方」が求められることや、近年、メディアなどにより自然災害における被害状況が報じられることなどから、関心が高まっているのではないかと考えた。

また、室内を快適に保つために掃除を行ったり片付けをしたりすることが「ときどきある」と答えた生徒は16名で、60%の生徒は自分からすすんで住まいの環境を整えようとする意欲が見られない。

安全に住まうための工夫を行っていると認識している生徒は10名で全体の25%である。「わからない」と答えた生徒が16名いることから安全対策に関心はあるものの実践に結びついていないことが分かる。

指導に当たっては災害に備えた住まい方の工夫を考える活動を行い、生徒が実生活と学習内容を結びつける場面を取り入れた。その際、避難経路の確保のための家具の配置が挙げられるが、より安全に住まうための工夫として、器具を使った家具の固定や、災害時の家族との約束事などよりよい解決策へと発展させていきたい。

6 本時の実際

(1) 主題 安全な住まい方

(2) 指導目標

安全な住まい方に関心をもたせ、災害に備えた住まい方の工夫を行うことの大切さに気付かせる。

(3) 目標行動

安全な住まい方に関心を持ち、災害に備えた住まい方の工夫を行うことの大切さを説明することができる。

(4) 評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
家族が安心して住ま うために室内環境をど のようにしたらよいか、 関心をもっている。	自然災害への備え として、安全な住ま い方が具体的に工夫 できる。		自然災害への備えと いう視点から室内環境 の整え方、安全管理の 方法がわかる。

(5) 授業設計の視点

ア 見通しをもたせ、意欲を高める教材・教具の活用

わかる・できるを実感させる学習指導の工夫として、見通しをもたせ、学習意欲を高める教材・教具として室内模型を活用することにした。生徒はまず模型の観察を通して工夫点を考える。さらに自分の考えた工夫点が正しいかどうか操作することにより検証することができる。これらの活動を行った後には自分の生活する住まいの課題が見えやすくなったり、課題を見つけようとしたりする意欲が高まっていくと考える。

ア 創造的に考える力を高める指導の工夫

生徒の創造的に考える力を高めるために、これまでに習得してきた知識や技術、経験などを駆使して課題の解決のために追究していく場面をもうけることにした。始めに課題に対して自分の意見や考えを導き出す。それらをグループで練り上げていく。教師はグループや全体で導き出した解決策に対して更に新しい課題を出す。これらの活動を繰り返し行うことにより、生徒は課題の解決に必要な思考のプロセスを身に付けていくと考えた。

(6) 学習過程

過程	学習の流れ	時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	教材 教具
導入 ほりおこし 課題の共有化	はじめ				
	1 鹿児島県の防災について知る		1 鹿児島県が行っている防災について知る。	1 地域で災害に対する対策が行われていることを知らせ、自分の意識と照らし合わせる。	1 VTR
	2 発表	10	2 考えたことを発表する。 ・本当にこんな被害が起きたら大変だ。 ・自分自身は何も考えていなかった。	3 自分たちの生活を安全で快適にするために工夫することを知らせる。	4 ワークシート
自己追求・相互練り上げ 展開	補				
	4 学習課題の設定		4 学習課題を設定する。 自然災害に備えた住まい方のためにどのような工夫ができるだろう		5 ワークシート 室内模型
	5 提示された室内の配置の問題点	15	5 提示された部屋の問題点を考える。 ・避難経路が確保できない。	5 個人で考え、グループでの意見交換を活性化させる。	
自己解決 終末	補				
	6 災害に備えた住まいの中の対策を考える		6 問題点をふまえて災害に備えた住まいの中の対策を考える。	6 工夫点を付箋紙に書き、室内模型に貼らせる。	6 室内模型
	7 発表	10	7 室内模型を使って対策を発表する。 ・ドアの近くに家具を置かない。 ・ベッドを窓から離す。 ・高いところには重いものを置かない。 ・避難経路を確保する。	8 家具の配置換えだけではなく、様々な器具を併用することでより安全に住まうことができることに気付かせる。 教科論文5(2)-ア 考えをより深める場の設定	7 書画カメラ ビデオカメラ 転倒防止器具 防災グッズ
自己解決 終末	9 家族間や地域での対策を考える	10	9 家族間や地域での対策について考える。 ・避難場所を決めておく。 ・防災訓練に参加する。	11 地域とのつながりが日頃から必要なことを伝える。	
	10 わかったか		10 発表により確認する。	12 これまでに考えた工夫を一枚のボードにまとめることで防災の視点を意識づける。	1 ワークシート シェアリングボード
	補				
自己解決 終末	12 本時のまとめ		12 室内模型に貼った付箋紙をシェアリングボードにまとめる。 ・住まいの中の対策 ・家族間や地域での対策	14 家族が安全に住まうために設備の見直しや、家族との約束事など、日頃から備えておくことの大切さに気付かせる。	
	13 わかったか	10	13 隣の班と交換し、相互に評価する。	15 被害を最小限に抑えるためには現状を把握し、改善することが必要に気付かせる。	
	補				
自己解決 終末	15 自己評価	5	15 自由記述による自己評価を行う。		
	おわり				